

いぶき 13号平成 24年 1月

世界の偉人たち「驚きの日本発見記」

第12回：李登輝 り とうき (1923年～)

若いときに受けた日本教育が持っていた非常に純粋な人間的な側面、つまり、人間とは何ぞや、われわれはどう生きるべきか、生死とは、といった問題を、あの時代に体得できたことを、個人として私は非常に感謝している。日本文化について私に理解があるとしたら、あの時代に私が受け取ったものが非常に大きかったということに尽きるだろう。本当に感謝している。

(出典『アジアの知略』光文社)

蒋介石の息子である蒋経国の後継者として、中国の歴史上初めて民主的な手続きを経て一国のトップとなった李登輝は、台湾を民主化に導いた殊勲者です。日本統治下の台湾で生まれ、台北高等学校を卒業後、京都帝国大学農学部に進学して日本の教育を受け、その後台湾大学や米国アイオワ州立大学でも学んでいますが、人生に一番大きな影響を与えたのは「日本の教育」だったと言います。日本が台湾統治を教育から始めた事は「世界にも例のない事」と評し、新しい知識を得て近代的意識が養成されたと感謝しています。一方、マレーシアのマハティール前首相は、イギリス統治下時代には満足な教育を受けられず、職業の選択肢を持ち得なかった、と言っています。京都大学に進学し、岩波文庫を700冊以上も所有し、源氏物語やゲーテに触れて様々な勉学に打ち込めたという李登輝とは雲泥の差です。李登輝は、日本の美德や学問重視の姿勢に感銘し、人類危機克服の為の「絶対に必要不可欠な精神的指針」は『大和心』であるとし、国際社会が直面する困難に際し、日本への期待と希望は益々大きくなると展望しています。(M. I.)